

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	四国財務局長
【提出日】	2019年11月14日
【四半期会計期間】	第34期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	株式会社クリエアナブキ
【英訳名】	CRIE ANABUKI INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 上口 裕司
【本店の所在の場所】	香川県高松市磨屋町2番地8
【電話番号】	087 - 822 - 8898（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理部長 別宮 貴仁
【最寄りの連絡場所】	香川県高松市磨屋町2番地8
【電話番号】	087 - 822 - 8898（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理部長 別宮 貴仁
【縦覧に供する場所】	株式会社クリエアナブキ名古屋支店 （名古屋市中区錦三丁目5番30号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第33期 第2四半期連結 累計期間	第34期 第2四半期連結 累計期間	第33期
会計期間	自2018年 4月1日 至2018年 9月30日	自2019年 4月1日 至2019年 9月30日	自2018年 4月1日 至2019年 3月31日
売上高 (千円)	3,221,669	3,196,193	6,474,980
経常利益 (千円)	94,413	107,688	163,744
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	52,374	63,475	94,693
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	60,214	69,250	101,553
純資産額 (千円)	1,053,202	1,136,656	1,094,541
総資産額 (千円)	2,009,915	2,047,208	2,105,521
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	22.65	27.45	40.95
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	48.9	52.1	48.7
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	86,545	12,855	115,466
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	27,285	16,092	30,290
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	34,139	28,978	33,006
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	1,121,820	1,116,653	1,148,868

回次	第33期 第2四半期連結 会計期間	第34期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自2018年 7月1日 至2018年 9月30日	自2019年 7月1日 至2019年 9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	4.75	11.40

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、輸出を中心に弱さが続いているものの、個人消費が持ち直し、設備投資も緩やかに増加するなど、景気は緩やかな回復基調にあります。人材サービス業界に関しては、有効求人倍率が1.6倍前後で高止まり、完全失業率が2%台の低水準で推移するなど、人手不足感の強まりを受けて、雇用情勢は改善を続けております。

このような経営環境の中にあって、当社グループは、新たなコーポレートスローガン「ひとに翼を。」を掲げ、女性の労働参加率の向上や海外人材の活用など、中四国の労働市場の現状に即した地域経済の活力の維持・向上に必要な施策の展開により、中四国での多様な雇用機会の創出を通じた収益の拡大に取り組んでおります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は、中国地域での人材派遣売上の低迷などから、売上高が3,196,193千円（前年同四半期比99.2%）と僅かに減少したものの、物流関連アウトソーシング事業などの総利益率の改善により、営業利益は90,774千円（同141.5%）、経常利益は107,688千円（同114.1%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は63,475千円（同121.2%）といずれも前年同四半期比で増益となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

各セグメントの営業利益の合計額は300,961千円ですが、全社費用等の調整（調整額 210,186千円）により、四半期連結財務諸表の営業利益は90,774千円となっております。

#### （人材派遣事業）

当事業の売上高は1,708,576千円（前年同四半期比94.4%）、営業利益は184,065千円（同97.5%）となりました。

当社グループの主力である当事業では、強みを有する事務系派遣や紹介予定派遣に加えて、軽作業系の派遣、子育てや家事と両立しやすい時短派遣にも注力いたしました。また、子育て世代の女性にすこやかな働き方を提案するプロジェクト「ママ友ワーキングラボ」において「親子でおしごと相談会」を継続的に開催するなど、女性就業支援への取組みを一段と強化いたしました。中国地域での売上低迷から、前年同四半期の実績を下回りました。

#### （アウトソーシング事業）

当事業の売上高は1,217,710千円（前年同四半期比109.0%）、営業利益は76,690千円（同241.4%）となりました。

株式会社クリエ・ロジプラスが営む物流関連アウトソーシング事業では、主たる取引先からの受注が底堅く推移する中、他の大口取引先からの受注が増加してきております。また、当社単体のアウトソーシング売上も増収となったことから、前年同四半期の実績を上回りました。

なお、当社は、株式会社ママスクエアとの間に締結したフランチャイズ・チェーン加盟契約に基づき、前期の「クリエ×ママスクエア高松」に続いて、中国地域で初めてとなる未就学児の母親を対象とした見守りスペース付オフィス「クリエ×ママスクエア広島」を当社広島支店事業所内に開設し、2019年7月から事務系業務の請負を開始しております。

#### （人材紹介事業）

当事業の売上高は88,028千円（前年同四半期比96.3%）、営業利益は26,814千円（同98.8%）となりました。

収益性の高い当事業では、東京と大阪の「中国・四国UIターンセンター」を主軸に、自治体との連携強化を図りながら、2大都市圏から中四国への人材還流に繋がるUIターン転職支援を積極的に推進いたしました。また、地域在住の幅広い層の求職者を対象とした中四国域内での転職支援にも注力いたしました。成約件数が全般的に伸び悩み、前年同四半期の実績を下回りました。

なお、海外人材活用の取組みの一環として、前期末からベトナム人の高度人材を地域企業に紹介するサービスを開始いたしました。また、2019年9月には、同年4月施行の改正出入国管理法に基づいて特定技能外国人の就労支援を行う登録支援機関としての登録を受けております。

(採用支援事業)

当事業の売上高は158,154千円(前年同四半期比87.7%)、営業利益は8,983千円(同35.6%)となりました。  
株式会社採用工房を中核企業として首都圏や近畿圏で営んでいる当事業については、企業の求人・採用に係る代行業務において業況が急変した一部取引先からの受注が著しく減少したことなどから、前年同四半期の実績を下回りました。

(その他)

再就職支援、研修・測定サービスなど、上記の各セグメントに含まれない事業の売上高は23,723千円(前年同四半期比101.1%)、営業利益は4,407千円(前年同四半期は629千円の営業損失)となりました。

(2) 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産、負債及び純資産の状況は、次のとおりであります。

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前期末に比べ58,313千円減少して2,047,208千円となりました。これは、現金及び預金の減少(1,147,868千円から1,115,653千円へ32,215千円減)などによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前期末に比べ100,428千円減少して910,551千円となりました。これは、未払費用の減少(446,036千円から400,895千円へ45,141千円減)などによるものであります。

なお、有利子負債の期末残高は、前期末に比べ2,000千円減少して86,000千円となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前期末に比べ42,115千円増加して1,136,656千円となりました。これは、配当金の支払い及び親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の変動(676,011千円から716,361千円へ40,349千円増)などによるものであります。

なお、自己資本比率は、前期末より3.4ポイント上昇して52.1%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の四半期末残高は1,116,653千円となり、前期末に比べ32,215千円減少いたしました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果獲得した資金は12,855千円(前年同四半期は86,545千円の獲得)となりました。これは、税金等調整前四半期純利益の計上などによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は16,092千円(前年同四半期は27,285千円の使用)となりました。これは、固定資産の取得による支出などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は28,978千円(前年同四半期は34,139千円の使用)となりました。これは、配当金の支払いなどによるものであります。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について、重要な変更はありません。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

該当事項はありません。

(7) 主要な設備

広島支店の拡充

株式会社ママスクエアとの間に2019年5月1日付で締結したフランチャイズ・チェーン加盟契約に基づき、同年7月1日に、見守りスペース付オフィス「クリエ×ママスクエア広島」を当社広島支店事業所内に開設いたしました。

なお、この主要な設備の変動は前期末において計画中であったものであり、この変動が当社グループの経営成績に与える影響は軽微であります。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	9,000,000
計	9,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,340,000	2,340,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	2,340,000	2,340,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年7月1日~ 2019年9月30日	-	2,340,000	-	243,400	-	112,320

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
穴吹興産(株)	香川県高松市鍛冶屋町7-12	1,323,500	57.23
藏田 徹	香川県高松市	228,700	9.89
クリエアナブキ従業員持株会	香川県高松市磨屋町2-8	76,400	3.30
(株)穴吹ハウジングサービス	香川県高松市紺屋町3-6	65,500	2.83
島津 実義	大阪府高槻市	55,500	2.40
穴吹 忠嗣	香川県高松市	48,000	2.08
深谷 泰平	香川県坂出市	31,000	1.34
上口 裕司	香川県高松市	29,000	1.25
山下 博	大阪府泉南市	27,000	1.17
楠本 秀作	大阪府堺市東区	25,300	1.09
計	-	1,909,900	82.59

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 27,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,312,200	23,122	-
単元未満株式	普通株式 400	-	-
発行済株式総数	2,340,000	-	-
総株主の議決権	-	23,122	-

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
(株)クリエアナブキ	香川県高松市 磨屋町2-8	27,400	-	27,400	1.17
計	-	27,400	-	27,400	1.17

## 2【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,147,868	1,115,653
売掛金	665,671	634,446
仕掛品	123	13,107
原材料及び貯蔵品	1,230	856
前払費用	19,271	23,306
未収還付法人税等	8,156	-
その他	8,345	10,145
貸倒引当金	912	1,054
流動資産合計	1,849,755	1,796,461
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	54,966	58,525
工具、器具及び備品(純額)	9,559	10,614
有形固定資産合計	1,64,525	1,69,140
無形固定資産		
のれん	9,882	6,040
ソフトウェア	27,013	24,870
電話加入権	4,525	4,525
無形固定資産合計	41,421	35,436
投資その他の資産		
投資有価証券	2,311	2,425
繰延税金資産	75,612	72,360
差入保証金	71,004	70,494
その他	889	889
投資その他の資産合計	149,818	146,169
固定資産合計	255,765	250,746
資産合計	2,105,521	2,047,208

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	18,000	16,000
未払金	89,527	76,895
未払費用	446,036	400,895
未払消費税等	85,862	96,675
未払法人税等	40,574	41,033
預り金	43,276	8,863
賞与引当金	92,395	72,521
その他	5,611	6,925
流動負債合計	821,284	719,810
固定負債		
長期借入金	70,000	70,000
退職給付に係る負債	119,695	120,741
固定負債合計	189,695	190,741
負債合計	1,010,980	910,551
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	243,400	243,400
資本剰余金	112,320	112,320
利益剰余金	676,011	716,361
自己株式	6,679	6,679
株主資本合計	1,025,052	1,065,401
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	564	644
その他の包括利益累計額合計	564	644
非支配株主持分	68,924	70,610
純資産合計	1,094,541	1,136,656
負債純資産合計	2,105,521	2,047,208

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位 : 千円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2018年 4月 1日 至 2018年 9月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年 9月30日)
売上高	3,221,669	3,196,193
売上原価	2,588,660	2,532,347
売上総利益	633,009	663,845
販売費及び一般管理費	568,879	573,071
営業利益	64,129	90,774
営業外収益		
受取利息	65	4
受取配当金	19	19
受取賃貸料	1,206	206
助成金収入	28,678	15,419
その他	829	1,709
営業外収益合計	30,798	17,359
営業外費用		
支払利息	515	419
為替差損	-	26
営業外費用合計	515	445
経常利益	94,413	107,688
特別損失		
固定資産除却損	573	-
特別損失合計	573	-
税金等調整前四半期純利益	93,839	107,688
法人税、住民税及び事業税	26,783	35,299
法人税等調整額	6,899	3,217
法人税等合計	33,683	38,516
四半期純利益	60,156	69,171
非支配株主に帰属する四半期純利益	7,781	5,696
親会社株主に帰属する四半期純利益	52,374	63,475

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	60,156	69,171
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	58	79
その他の包括利益合計	58	79
四半期包括利益	60,214	69,250
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	52,433	63,554
非支配株主に係る四半期包括利益	7,781	5,696

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	93,839	107,688
減価償却費	11,600	12,912
貸倒引当金の増減額(は減少)	131	141
賞与引当金の増減額(は減少)	2,780	19,874
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	7,283	1,045
受取利息及び受取配当金	85	24
支払利息	515	419
固定資産除却損	573	-
売上債権の増減額(は増加)	57,935	31,224
たな卸資産の増減額(は増加)	6,099	12,609
未払消費税等の増減額(は減少)	1,379	10,812
その他の資産の増減額(は増加)	9,955	3,465
その他の負債の増減額(は減少)	24,635	86,339
その他	1,027	496
小計	131,213	41,436
利息及び配当金の受取額	85	24
利息の支払額	507	457
法人税等の支払額	44,246	36,327
法人税等の還付額	-	8,179
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>86,545</b>	<b>12,855</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	24,812	9,461
無形固定資産の取得による支出	1,621	6,770
関係会社貸付けによる支出	100,000	-
関係会社貸付金の回収による収入	100,000	-
その他	852	139
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>27,285</b>	<b>16,092</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	-	2,000
長期借入金の返済による支出	9,998	-
配当金の支払額	18,551	22,968
非支配株主への配当金の支払額	5,590	4,010
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>34,139</b>	<b>28,978</b>
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	25,119	32,215
現金及び現金同等物の期首残高	1,096,700	1,148,868
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,121,820	1,116,653

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1.有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
	47,891千円	50,214千円

2.当座貸越契約

当社グループ(当社及び連結子会社)は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行4行との間で、それぞれ当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく、借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
当座貸越極度額	550,000千円	550,000千円
借入実行残高	18,000千円	16,000千円
差引額	532,000千円	534,000千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
給料手当	200,387千円	191,689千円
賃借料	46,054千円	42,822千円
賞与引当金繰入額	37,811千円	38,870千円
退職給付費用	7,729千円	7,208千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
現金及び預金勘定	1,120,820千円	1,115,653千円
その他(証券会社預け金)	1,000千円	1,000千円
現金及び現金同等物	1,121,820千円	1,116,653千円



(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月26日 定時株主総会	普通株式	18,500	8	2018年3月31日	2018年6月27日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの  
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月20日 定時株主総会	普通株式	23,125	10	2019年3月31日	2019年6月21日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	人材派遣事業	アウトソー シング事業	人材紹介事業	採用支援事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	1,809,605	1,116,767	91,392	180,435	3,198,200	23,468	3,221,669	-	3,221,669
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	743	-	2,577	12,300	15,621	-	15,621	15,621	-
計	1,810,349	1,116,767	93,970	192,735	3,213,822	23,468	3,237,290	15,621	3,221,669
セグメント利益又は セグメント損失( )	188,871	31,766	27,143	25,248	273,030	629	272,400	208,270	64,129

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、再就職支援事業、研修・測定サービスなどを含んでおります。

2. 調整額は、次のとおりであります。

(1) セグメント利益又はセグメント損失の調整額 208,270千円には、セグメント間取引消去2,264千円、のれん償却額 552千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 209,982千円が含まれておりません。

(2) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	人材派遣事業	アウトソー シング事業	人材紹介事業	採用支援事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	1,708,576	1,217,710	88,028	158,154	3,172,470	23,723	3,196,193	-	3,196,193
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	743	-	-	12,300	13,043	18	13,062	13,062	-
計	1,709,320	1,217,710	88,028	170,454	3,185,513	23,742	3,209,256	13,062	3,196,193
セグメント利益	184,065	76,690	26,814	8,983	296,553	4,407	300,961	210,186	90,774

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、再就職支援事業、研修・測定サービスなどを含んでおります。

2. 調整額は、次のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額 210,186千円には、セグメント間取引消去1,910千円、のれん償却額 552千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 211,544千円が含まれております。

(2) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

(金融商品関係)

前連結会計年度末と比較して著しい変動はありません。

(有価証券関係)

前連結会計年度末と比較して著しい変動はありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益	22円65銭	27円45銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	52,374	63,475
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る 親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	52,374	63,475
普通株式の期中平均株式数(株)	2,312,527	2,312,527

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月13日

株式会社クリエアナブキ  
取締役会 御中

### EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 渡辺力夫 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小川伊智郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社クリエアナブキの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社クリエアナブキ及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。